

「ワークライフバランスを重視する研究者のためのアカデミアキャリア構築スキルコース」2025年度

参加者の声

WeChangeが掲げる目標の一つ「院生からシニアまでのシームレスなキャリアアップ」達成のため、ジェンダー・エクイティ推進オフィスでは、2024年度から「ワークライフバランスを重視する研究者のためのアカデミアキャリア構築スキルコース（以下、スキルコース）」と名称を変更し、本格的に開始しました。2025年度のスキルコースでは、およそ250名の学内構成員に登録いただき、4月より様々なプログラムに取り組んでいます。

スキルコースは以下の4つのプログラムから構成されます。

1 | ライティングチャレンジ

キャリアに最も重要である書き物仕事を最優先する習慣を身につけるアクティビティです。ライティングの内容などを宣言、記録し、リアクションスタンプ

でお互いに励ましあいます。

2 | ネットワーク・マッピング・ワークショップ

研究に関わる人脈を戦略的、かつ効率的に構築するための方針を立てるために、「ネットワーク・マップ」を使って人脈を可視化します。

3 | ネットワーク・イベント

研究者同士で、研究に関する悩みを共有しあいます。

4 | 研究費獲得セミナー

研究費獲得経験者の話題提供、グループディスカッションで、研究費申請について、問題点を共有します。

今年度より、スキルコース参加者を対象とした研究費支援制度がスタートし、今年度は59名が採択されました。研究費の募集は終了しましたが、スキルコース参加者は随時受け付けております。ご興味のある方はぜひ、ご参加ください。

スキルコースのポータルサイト
(UTokyo Accountからアクセス可)



ライティングチャレンジ

★宣言して、30～1時間くらいでやるという方法でやることで、メリハリをつけて割り切りながらライティングをこなすことが出来てよかったです。

また、皆さんのチャレンジを見て、自分も頑張るぞ～といった感じにモチベーションが上がりよかったです。リアクションもたくさんいただけて本当に励みになりました。

★普段は、仕事や育児に追われ、どうしても目の前で回していかなければならないことが優先で授業の文献対応などで精一杯でした。

研究費獲得セミナー

★外部資金の獲得を目指すときに役に立つ情報源の情報や研究費獲得の具体的な経験談などを知ることができて参考になりました。ディスカッションでは、それぞれの経験談を聞いて勉強になりました。

★グループディスカッションで、他の人がどんな事を考えて申請書を書いているのか知れたこと（さらには、みんな同じような悩みを抱えていることがわかったこと笑）が、良かったです。

ネットワーク・マッピングワークショップ

★ネットワークマッピングを実際に記入してみて、自分は研究活動において人との繋がり全体的に不足しており、特に不足しているのは他の人からの意見やアドバイスをもらう機会だと感じた。(…) グループディスカッションも興味深く、今回会った方々のように、いつもは知り合うことができない方々と話すことは大切だと思った。



研究費獲得セミナー
(学際篇)の様子



国際女性デーイベント

「大学院生時代のライフイベントをどう乗り越えたか—経験者に訊いてみよう」

20 25年2月27日に、国際女性デー（3月8日）を記念するイベントとして「大学院生時代のライフイベントをどう乗り越えたか—経験者に訊いてみよう」を学内限定で開催しました。イベントは2部構成で実施し、34名の方にご参加いただきました。

第1部では、大学院学生時代のライフイベント（主に妊娠・出産・子育てなど）の経験者による座談会をオンラインと対面のハイブリッドで実施しました。そこでは、大学院学生が使える支援や制度が少ないことについ



て問題意識が共有されました。

第2部ではネットワーキングイベントが対面のみで実施されました。文系と理系に分かれ、穏やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。育児中の大学院学生が抱える困難には経済的側面や精神的側面から生じるものがあり、それらを支援するためにどのような制度があると良いのかなど様々な意見が出ました。

第1部の登壇者の中には「長期履修制度」を使った方もいらっしゃいましたが、大学院学生向けの子育て支援のための制度がほとんどないことは、ジェンダー・エクイティ推進オフィスでも課題だと感じています。引き続き、子育て中の大学院学生が研究を諦めずに進められる支援や制度の設計について考えていきたいと思います。

イベントレポートは
こちらから
(#WeChangeサイト)



安心、快適に。キャンパスにおける生理用品へのアクセシビリティを考える

～ディスペンサー&情報カード・モノの「その先」へ～

6 月30日、東京大学保健センター女性診療科と共催でSafer Campus at UTokyoの一環として、上記トークイベントを行いました（協力：NPO法人TGP、東京大学グローバル教

育センター）。

当日は、TGP代表の東尾理子氏、女性診療科の中西恵美氏をゲストに迎え、当オフィスが行っているTGP提供の生理用品ディスペンサー設置事業や、保健センター女性診療科と連携して製作した情報カードを紹介。さらに、性と生殖に関する健康と権利をとりまく環境などについてパネルディスカッションを行いました。

その後、参加者と登壇者で大学内での生理用品をはじめ性に関する情報やケア、サービスなどについてグループディスカッションを行いました。参加者からは「ぜひ必修の授業としてやってほしい」「もっと男性にも参加してほしい」「性暴力やLGBTQ+に関する知識を学生・教職員双方に普及することは急務」といった声がありました。当オフィスでは、キャンパスの安心・安全のための取り組みを、引き続き進めてまいります。

イベントレポートは
こちらから
(#WeChangeサイト)



2024年度開講「ジェンダーを考える」 (学術フロンティア講義)の講義動画が UTokyo OCWにて公開されました!



#WeChangeサイト

林香里理事・副学長のインタビュー、 小川副オフィス長の講義の様子が テレビで紹介されました

3月29日に放送された「シリーズ 日本人と東大 第2回 壁と翼～“女子学生2割”の問いかけ～」(NHK Eテレ)にて、林香里理事のインタビュー、小川真理子副オフィス長の講義の様子が紹介されました

夏季学内学童期子ども保育を 行いました

8月18日から20日の3日間、UTokyo Women & Diversity 有志主催、ジェンダー・エクイティ推進オフィス後援で「夏季学内学童期子ども保育」を開催しました。教職員・学生の子どもたち(6歳から12歳まで)のべ59人が、スライム作りやゴムあみ、ミニお祭りでのヨーヨー釣りや射的、科学体験等ができるアクティビティ(骨の観察、地震計づくりなど)を楽しみました。異なる年齢の子どもたちが交流する機会にもなり、有意義な夏休みの体験となりました。



役員研修

2023年度から年に1度行っている本学の役員を対象にした「D&Iへの理解の深化・定着促進セミナー」ですが、本年度2025年6月24日(火)に役員・部局長向けに、6月29日(金)副理事・本部部長・事務(部)長向けに実施しました。今年度はIncluDEの熊谷副センター長の司会進行のもと、ロールプレイ形式での研修を行いました。



詳細についてはこちら
から(東京大学サイト)

鷗友学園の高校生が 当オフィスを訪問しました

6月11日、ジェンダー・エクイティ推進オフィスに鷗友学園女子高等学校の生徒、約30名が来訪しました。『Perspectives』等を配布し、オフィス員(小川、福田、久保、小野)がIncluDE、ジェンダーエクイティ推進オフィスの取組みや昨年度行ったキャンペーン「#言葉の逆風」のポスターを作成するにいたった経緯や狙い等について説明しました。質疑応答では、東大生の入学後の生活や、日本で男女共同参画が進まないのはなぜか、オフィス員がジェンダー・エクイティ推進オフィスで働くことになった経緯、研究のことなどキャリアパスについての質問もありました。



林香里理事・副学長の寄稿が Nature World Viewに掲載

2月11日、本学の理事・副学長(国際、ダイバーシティ&インクルージョン)の林香里の寄稿「'Male-dominated campuses belong to the past': the University of Tokyo tackles the gender gap」がNature(vol.638)のWorld Viewに掲載されました。2024年5月～7月頃でジェンダー・エクイティ推進オフィス(IncluDE)が実施した「#言葉の逆風」プロジェクトを始め、女性リーダー育成に向けた施策「UTokyo男女協働改革WeChange」に関する取り組みについても紹介されています。



#WeChangeサイト

「東京大学におけるジェンダー・ エクイティ研修「誰にでもある 思い込みと向き合う」の実践と 効果検証の報告」が ポリモルフィアvol.10に掲載されました

2023年度に実施したジェンダー・エクイティ研修の実践と効果検証の報告がポリモルフィアvol.10に活動報告として掲載されました。安東明珠花・久保京子・中野円佳・小川真理子・伊藤たかね、2025、「東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」の実践と効果検証の報告」『ポリモルフィア～Polymorfia』10, 91-99.

2025年度D&Iに関する 部局別教職員向け(FD・SD)研修

多様性包摂共創センターでは、「世界のだれもが来なくなる大学」の実現を目指し、構成員の意識改革に取り組んでいます。その一環として、D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)に関する全構成員受講必須研修、役員・部局長向け研修等を実施してきました。そして今年度より、当センターが提供する研修テーマをもとに、各部局のご要望に応じて実施する部局別教職員向け(FD・SD)研修を新たに提供することといたしました。

ジェンダー・エクイティ推進オフィスでも3つのFD・SD研修のテーマを提供しています。

学内の方は、下記のリンクからも詳細をご確認いただけます。



UTokyo Portal「D&Iに関する部局別教職員向け(FD・SD)研修の実施について(依頼)」[学内のみ]:



#WeChangeサイト

台湾大学Yeh教授来訪

6月27日、国立台湾大学からTheresa Der-Lan Yeh教授(Gender Mainstreaming Center for Higher Education所長)が来訪されました。伊藤たかね Includeセンター長、ジェンダー・エクイティ推進オフィスの小川副オフィス長、福田特任研究員、久保特任研究員、DEI共創戦略室の中野副室長、安東助教、金特任研究員、ダイバーシティ推進課の泉特任専門職員と情報交換を行いました。

岩手大学来訪

7月4日に、岩手大学から海妻径子副学長と菊池真由特任研究員が来訪されました。吉江尚子副学長、伊藤たかね 副学長・Includeセンター長、田野井慶太郎オフィス長、小川副オフィス長が両大学における取組について意見交換を行いました。



#WeChangeサイト

今後の予定

2025年度 Safer Campus at UTokyoプロジェクト始動

ジェンダーに基づくハラスメントや暴力のない、安心、安全なキャンパス環境を目指します。

2025年度 Aセメスター 学術フロンティア講義「多様な視点からジェンダーを見る」

ジェンダーに関わる様々なテーマについて学内外の講師が各専門分野の視点から講義します。

2025年度 Aセメスター三大学連携講義「ジェンダード・イノベーション入門」

お茶の水女子大学、東京大学、東北大学による2026年2月のオンライン集中講義を開講します。

10月18日 東大ママ門・IncluDE共催 パネルディスカッション 「社会課題の解決と女性のキャリア」開催

10月18日（土）13：00～東京大学ホームカミングデー内企画（対面＋ハイブリッド配信）

10月25日 女子高校生のための東京大学説明会—リアル東大生と 未来の東大生と交流しよう!— with 藤井総長

キーワードで学ぶ
男女共同参画

（性と生殖に関する健康と権利 SRHRとは？） (Sexual and Reproductive Health and Rights)

MY BODY, MY CHOICE

私のからだは、私のもの。

この言葉を聞いて、皆さんはどう感じるでしょうか？「当然だ」と思う人もいれば、「自分のからだが自分のものだ、どうしても思えない」という人もいるかもしれません。

「性」や「生殖」に関することは、長い間、国家の人口政策や経済戦略の一環として管理の対象とされてきました。そのような状況に対し、1970年代から地道な女性運動と議論が続けられ、1995年北京第4回世界女性会議ではじめて「リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ」が確立。すべての個人とカップルが、いつ、誰と、結婚するか、それとも結婚しないか、子どもを産むか産まないか、産むなら

いつ何人産むかを含め、性や生殖に関わる事柄は、国家の都合に基づく管理対象ではなく、個々人の生活の質、選択、尊厳に関わる自己決定できる権利として確立したのです。その後も発展を続け、自分らしいジェンダー、セクシュアリティで生きられること、性的な行動をとるかとらないかなど、セクシュアル・ヘルス＆ライツもあわせて保障されるに至っています。

「少子化対策」をはじめ、国家が性や生殖の管理を試みる動きは、世界的な右派の台頭も相まって、収まるどころか一層激しさを増しています。SRHRは、すべてのひとの、大切な権利。まずは知ることから、はじめてみませんか。

データで読み解く東大のジェンダー

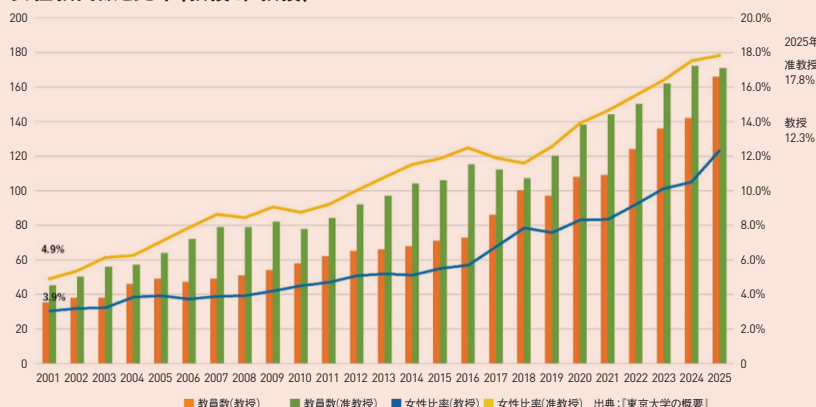
#WeChangeの取組:男女別研究者活躍データの可視化

東京大学を構成する教員や学生の男女別人数を把握することは、本学のジェンダー平等・ダイバーシティ推進のために必要な指標の一つです。本学は、2022年度に「UTokyo Compass モニタリング指標 IRデータ集」の中で教員、学部学生、大学院学生の男女割合や女性比率の経年変化等を公開しています。2022年度よりジェンダー・エクイティ推進オフィスのホームページにおいて、新たに「データ集」の項目を設け、女性上位職（教授・准教授）の教員数及び女性比率、学部学生、大学院学生の人数と女性比率の推移のグラフを公開しています。下のグラフは、そのうちの一つである、2001年度からの女性教授・准教授数と比率を示したもので、年々増加傾向にあります（基準日：各年5月1日）。これは、2022年度に採択された文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）の「UTokyo 男女協働改革 #WeChange」の男女別研究者活躍データ（以下、「男女別データ」）の可視化の取組になります。ジェンダー・エクイティ推

進オフィスでは、経営企画部IRデータ課等と連携し、男女別データを収集、分析し、2025年度に公開する準備をしています。男女別データの可視化によりエビデンスをもって全構成員にジェンダー、ダイバーシティ推進の意識の醸成を促すことを目指して

います。また、男女別データの分析を通して、ライフイベント等による研究を困難にする要因やバイアスの影響を明らかにし、制度的対応につなげていきたいと考えています。（多様性包摂共創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィス 小川真理子）

女性教員数と比率(教授・准教授)



今年度の ジェンダー・エクイティ 推進オフィス体制

2025年6月1日現在

理事・副学長(国際・ダイバーシティ&インクルージョン)
林 香里

IncluDEセンター長／副学長(ダイバーシティ教育、
多様性包摂共創センター、SOGI多様性)
伊藤たかね

副学長 (ダイバーシティ研究環境実現、ハラスメント
防止)／ワーク・ライフ・バランス推進部会長
吉江尚子

副理事(ダイバーシティ&インクルージョン推進)
松井正一

ジェンダー・エクイティ推進オフィス オフィス長
田野井慶太郎

副オフィス長／次世代促進部会長
浅井幸子

副オフィス長(専任)
小川真理子

ポジティブ・アクション推進部会長
熊田亜紀子

進学促進部会長
後藤由季子

ジェンダー・エクイティ推進オフィス特任研究員(専任)
久保京子

ジェンダー・エクイティ推進オフィス特任研究員
福田和子

ジェンダー・エクイティ推進オフィス特任研究員(専任)
小野仁美

IncluDE DEI共創推進戦略室 准教授(専任)
中野 円佳

IncluDE DEI共創推進戦略室 助教(専任)
安東 明珠花

IncluDE DEI共創推進戦略室 特任研究員(専任)
金 智慧

(事務局)経営企画部ダイバーシティ推進課